

# ぽらーの花巻

PublicRelationMagazine, PolanoHanamaki

2  
2016 No.216

## 特集1

産直 母ちゃんハウスだあすこ 沿岸店オープン

## 特集2

はなまきキッズ農業塾 in 東京・横浜



ちょっと  
いい話

## ここが違う！ 西和賀町の凍み大根！

凍み大根は、主に気温が氷点下になる日が続く北国で作られるが、西和賀町の凍み大根の作り方は他地域で作られる一般的なものとは少し違う。そのおいしさの秘密を紹介しよう。

### ◎作り方 ～茹でずに生のまま乾す～

一般的には、大根を20cmほどの短冊型にし茹でてから乾すのに対し、同町では11月に収穫し雪下保管しておいた大根を生のまま縦半分に切り、紐を通してそのまま外に吊るす。湯に通さない分大根の旨みや甘みを逃がすことなく凝縮できる。



### ◎乾す ～おいしさの秘密～

夜間の凍結と日中の解凍を繰り返しながら、吹き付ける寒風にさらし2カ月間じっくり乾燥させる。白かった大根は旨みが凝縮され次第に飴色に染まり、太さも3分の1ほどになる。その後の1カ月間は水気の無い風通しの良い場所で乾し、仕上げる。



### ◎料理 ～旨みがしみ出す～

西和賀町の凍み大根を使用した料理は格別の味だ。おいしさの秘密は凍み大根がさまざまな素材や出汁の旨みを吸収し、さらに大根の凝縮された甘みが料理に溶け出すから。頬張ると、歯ごたえと共に大根や具材のおいしさが口中にひろがる。まさに逸品である。



1.「集まって作業するのも楽しみのひとつ」と笑顔が溢れる  
2.雪の中乾される大根。3カ月後には旨みを蓄えて飴色になる  
3.短冊型に小さく切るのが一般的だが、同町では1本を縦に半分に切る  
4.使用する大根は昨年収穫し、雪下に保存していたもの  
5.出来上がりは袋に詰めて販売。長期保存が可能で水で戻して使用する。

**雪** 深い奥羽山系に囲まれた豪雪地帯、西和賀町。深々と降り積もった雪は2〜3mにもなる。厳しい冬を乗り切るため、先人達は寒さや雪を有効利用した加工技術を身に付け、冬場の貴重な食料を確保してきた。こうしてビスケットの天ぷらや雪納豆、すし漬けや大根の一本漬けなど特色ある食文化が伝えられてきた。その代表格のひとつとして「凍み大根」がある。

J A女性部西和賀地域支部加工研究グループでは、15年ほど前から凍み大根の加工とPR活動を始めた。かつては庭先で寒風を浴びながら揺れている大根は当たり前の冬の風景だったが時代とともに作り手が減少。先人達が守り伝えてきた偉大な知恵を絶やしてはいけないと、凍み大根を製品化させ、地元直売所やスーパーでの販売、イベントや女性部が集まる場でのPR

R、料理講習会などを続けてきた。中心となって活動に励む同支部長の中村キミ子さん（写真左から3人目）夫婦が大量生産に着目し、マスコミ等からも注目を浴びるようになった。凍み大根作りは寒さが厳しくなった頃に始まる。今年1月中旬に会員たちが中村さん宅に集まり、同町独自の方法で作業を進めた。中村さんは「この地域の気候と、ここだけの手法で作るにあげる特別

なもの。途絶えさせてはいけない」と話す。豪雪地帯で生まれた食文化の素晴らしさが見直され広く知られるようになった裏には、かじかむ寒さの中、手間隙かけて作り上げ、地道なPR活動を行ってきた人々がいる。同町を訪れると寒風に揺られる大根達が出迎えてくれる。今日もまた厳しい寒さに耐え、自らの体においしさをじっくりと蓄えながら。

## 「伝統の食文化を絶やさない」その強き意志と 厳しい寒さが生み出す“ここにしかない逸品”

### J A女性部西和賀地域支部加工研究グループ



【凍み大根についてのお問い合わせ先】西和賀統括センター管理課生活ふれあい係 ☎0197-85-3301まで  
【購入先】西和賀町内の産直や女性部の行事などでも購入できる。JA農産物直売所母ちゃんハウスだあすこ(花巻市野田)でも取り扱う。☎0198-24-2914  
※電話にて在庫を確認のうえご来店ください

## CONTENTS

### ぼらーの花巻 ●No.216 / 平成28年(2016)2月号

- 02 ぼらーのCOVER STORIES
- 04 愛農土に生きるII  
特集1  
産直 母ちゃんハウスだあすこ  
沿岸店オープン
- 10 特集2  
はなまきキッズ農業塾 in 東京・横浜
- 12 ぼらーのNEWS ●地域の話
- 14 information ●役員室より / ●理事会だより / ●監事会だより
- 16 風趣点景 ●管内滝巡り / ●編集後記

営農振興の新たな拠点

# 産直 母ちゃんハウス だあすこ沿岸店

# オープン

待望のオープン

1月15日、晴天のもと、母ちゃんハウスだあすこ沿岸店がオープンしました。

だあすこ沿岸店は、大槌町が昨年建てた「大槌町沿岸営農拠点センター」内にあり、JAの大槌支店や東部地区営農センターを合築。東日本大震災で被災した沿岸地域の農業活動の復興拠点とする事はもちろん、地域住民のよりどころとしての役割も果たします。

建物は鉄骨造で、売り場の床面積は203㎡、食堂は53㎡です。農林中央金庫をはじめとするJAグループからは店舗内の設備や資材の支援を頂きました。また、平成30年開通予定の三陸沿岸道路・大槌インターチェンジ（仮称）とのアクセスが良いこともあり、県内外から多くの人が立ち寄る場としても期待されています。



開店と同時に大勢の買い物客でにぎわう店内



姉妹提携を結んでいる和歌山県のJA紀の里のミカンの詰め放題は大人気



JA沿岸産直部会やJA女性部による甘酒のお振る舞い



開店を待ち望んだ多くの人が見守る中、新たな門出を盛大に祝ったテープカット



JA大槌支店も合築しています

だあすこ沿岸店を核とした地域農業の活性化

開店を前に行われたオープニングセレモニーでは、高橋専太郎組合長が「このセンターを拠点とした、協同活動と生産活動の展開で復興に力を入れていく事を改めて決意した。国や大槌町、農林中央金庫やキリン（株）などから多くの支援を頂き実現する事が出来たこのだあすこ沿岸店は、安全安心を消費者に届けるという使命を果たすだけでなく、農業生産者の販売の場や意欲向上、そして地域農業の復興など多くの機能を担っている。この場所を核として沿岸地域を更に活性化させていきたい」と力強く語りました。



新鮮野菜の出荷作業。JAスタッフと話し合いながら陳列方法を工夫する生産者

にぎわう店内

午前11時いよいよオープン。この日お待ちわびた多くの人々に見守られながら、テープにはさみが入れられ新たな門出を盛大に祝いました。

新鮮な農作物や手作り菓子、海産加工品などがズラリと並ぶ店内には、

開店と同時に来場者が次々と訪れ、色とりどりの品物を手に取りながら品定め。店内は活気に満ち、たくさんの笑顔が溢れました。

1月15日～17日はオープンセールが行われ、3日間で2334人が来店。日替わりで紅白餅や卵などを先着200名にプレゼントしたほか、JA沿岸産直部会やJA女性部による餅つきや甘酒などのお振る舞い、JAと姉妹提携を結んでいる和歌山県のJA紀の里のミカンの詰め放題など、さまざまなイベントが行われ、にぎわいをみせました。



ズラリと並ぶ地元の野菜を品定め



「安全安心で新鮮な地場産品に期待している」と笑顔を見せる買い物客

# みんなおいでよ! 産直母ちゃんハウス だあすこ沿岸店

**ここにも注目 産直と地域を繋ぐポップ**  
だあすこ沿岸店や地域農業が、子ども達や買い物客にとって親しみ深いものになってほしいという願い、そして地域とともに成長していきたいという思いから、販売する野菜の紹介は、大槌学園小学部が書いてくれた「手作りポップ」を使用しています。作物の栄養価や特徴、おすすめの調理方法などがイラストとともに書かれています。お買い物の際は、地域と農業を繋ぐ心温まるポップをご覧ください。



## 産直に名物を!

JAでは地域農産物の需要・消費拡大を目指し、地元加工製造会社などとともにさまざまな商品開発を行いました。現在も更なる商品の向上や新たな開発に力を注いでいます。だあすこ沿岸店や沿岸地域にとって「名物」「目玉」となるような商品を目指します。

**いか餃子**  
大槌産のキャベツとシイタケ、三陸産のイカを使用した餃子。農作物と海産物を融合させた一品です。店舗での販売のほか、食堂メニューとしても提供しています。

## 野菜まるごとスムージー

だあすこ沿岸店の野菜と、野菜をまるごとパウダーにしたもの、JA子会社ののむヨーグルトなど、ここでしか味わえない厳選素材と野菜の持つ栄養素をそのままジュースにしました。食堂メニューとして提供(温・冷)しています。

**大槌の里そば**  
大槌産のソバ「にじゆたか」を使用した半生麺を地元製麺会社とともに開発し店舗で販売。現在トッピング食材や乾麺商品も開発中です。食堂で提供しているソバメニューは、大槌の里そば(生麺)です。

**主なメニュー**  
日替わり母ちゃん定食 650円  
本店にある母ちゃんハウスだあすこでおなじみの「母ちゃん定食」のだあすこ沿岸店バージョン  
海そば・山そば 各500円  
大槌産ソバ粉で作った麺に、海そばはえび天をトッピング。山そばは野菜かき揚げをトッピング  
釜石椎茸麺 500円  
磯ラーメン 600円  
ボンディアソフトクリーム 300円  
野菜まるごとスムージー(冷・温) 350円  
全て税込みの価格です

**周辺案内図**  
大槌高校 至山田  
ローソン様 至山田  
きりり商店街  
大槌川  
トシネル 至釜石

**産直 母ちゃんハウスだあすこ沿岸店**  
大槌町大槌16-28 ☎0193-42-8151  
駐 車 場：普通車25台・マイクロバス2台  
営業時間：4月～11月 午前9時～午後6時  
12月～3月 午前9時～午後5時  
※定休日は年末年始と第2木曜日を基本としていますが、祝祭日と重なった際は変更する場合があります

**食堂**  
「日替わり母ちゃんおまかせ丼」その日水揚げされた海産物を使用した丼物。何が食べられるかは出てきてからのお楽しみ(550円)

農林中金と釜石地方森林組合から寄贈頂いたサケや海をモチーフとしたイスやテーブル



地元菓子店の商品や贈答品が並び、入り口では季節の切花や鉢花など、色とりどりのお花がお出迎え

地元産果実のほか、リンゴジュースやジャム、はちみつなどの加工品が並び、内陸で生産されたリンゴなども販売

大槌町の特産品などをモチーフに作られたコースターやストラップなどのハンドメイド作品や手ぬぐいなどのグッズも盛りだくさん

岸店ならではの魅力。JAは地元の水産業関係者や地域と手を取り合いながら、だあすこ沿岸店を拠点とした地域農業や産業、くらしの活性化を目指し、地元根ざした運営を行っています。

**地元団体と連携を深め 地方創生の拠点に**  
里と山の産物のほか、これまでになかった海の幸が楽しめるのはだあすこ沿岸店

食堂では、本店店舗で人気の「母ちゃん定食」をだあすこ沿岸店メニューで提供、ほかにも海産物を使用したメニューやJAが開発したスムージー、いか餃子や大槌産のそばも楽しむことができます。

食卓では、本店店舗で人気の「母ちゃん定食」をだあすこ沿岸店メニューで提供、ほかにも海産物を使用したメニューやJAが開発したスムージー、いか餃子や大槌産のそばも楽しむことができます。

冬期間中に品薄になる商品は、花巻市野田の本店敷地内にあるJA農産物直売所「母ちゃんハウスだあすこ」の生産者の野菜や果物、産地間交流をしてきた全国のJAファーマーズマーケットの商品を陳列。全国との繋がりを大切にしてきた長い歴史と、東西120kmの広い管内を持つJAいわて花巻だからこその充実した商品の提供を行っています。

**里山の恵みと海の幸**  
だあすこ沿岸店に足を踏み入れると、そこには、地元で採れたキャベツやシイタケ、花きなどの新鮮な農作物が並んでいます。ほかにも、手作りの菓子や惣菜、沿岸ならではの海産物が陳列棚をにぎわしています。



「挑戦しなければ何も始まらない」そう語るのは、同町で果樹やハウス野菜などを栽培する阿部和子さん。イチゴ栽培を始めたのは平成23年の震災直後だった。ゼロからの

### 人との繋がり

上、生産者の団結を後押しした。8戸57aを皮切りに面積拡大が進み、平成27年は18戸約1haに広がった。約10aで栽培する同町の阿部美智子さんは「冬採りキャベツは冬場の貴重な収入源。だあすこ産直が開店して出荷先も増える。多品目栽培のひと品種かもしれないけれど大きな可能性を秘めていると思う。一層の仲間づくりに繋げていければ」と期待を込めて話した。

### 描く未来

「挑戦しなければ何も始まらない」そう語るのは、同町で果樹やハウス野菜などを栽培する阿部和子さん。イチゴ栽培を始めたのは平成23年の震災直後だった。ゼロからの

スタートは困難の連続。でも何があっても諦めず、指導機関や栽培農家を幾度も訪問し、自らの足で技術を身に付けイチゴ作りを追究し続けた。今年では育苗にも挑戦する。どんな時も前へ進み続ける阿部さんの原動力は「人との繋がり」だ。壁にぶつかる度に、声をかけ力を貸してくれた生産者仲間や近所の人々が支えになった。「自分の農業をきつかけに、震災前のような地域の繋がりを取り戻したい。大好きな生まれ故郷への恩返し。下を向いても意味がない。元気に楽しい農業をしたいれば、農業に興味を持つ人も出てきて、地域農業に新しい仲間が出来ると思う」と明るい笑顔をみせた。

だあすこ沿岸店の存在は生産意欲の向上にも繋がっている。また学校給食やレストラン、ホテルなどからも需要があり、更なる販路拡大や地産地消の拠点になるだろう。しかしここまでくるのは容易ではなかった。東梅康悦同部会長は「設立時、会員が集まるかが不安要素のひとつだった」と振り返る。声掛けで会員は集まったが、農作物のにぎわいを1年中継続できるとはなかなかの課題だった。しかし、栽培講習会への参加率や新たな栽培品目に取り組みの姿、そしてオープンのにぎわいに不安はかき消された。「だあすこ沿岸店はひとつの起爆剤で、ここからがスタート。震災前以上に地域農業を活性化させていきたい。何より地域に喜ばれ必要とされる存在を目指す。私達にしか出来ない品揃えや店舗づくりをしていきたい」と東梅部会長は力強く語る。生産者たちの日々の努力と農業生産活動は、地域に活力を与え、未来を明るく照らす希望の光となるだろう。

- 1 仮設住宅を中心にまわった移動販売
- 2 栽培講習会。開催会場数を増やすことで、参加人数も増加し、生産者同士の交流にもなった
- 3 組み合わせ栽培の例も記載している野菜栽培暦
- 4 新たな品目に取り組み生産者ハウス
- 5・6 いつも笑顔の阿部和子さんと出荷したトマト
- 7 冬採りキャベツを収穫する阿部美智子さん
- 8・9 陳列棚に並ぶ冬採りキャベツと共同播種の様子
- 10 店内の品揃えはこれまでの努力が形として表れている
- 11・12 熱き思いを語ってくれた東梅康悦部会長。商品を確認しながら今後の展望をJA東部地区営農センター長と語り合う



### 震災から

東日本大震災の津波被害を受け、沿岸地域の組合員は販売場所を失った。JAでは組合員の営農活動と販売場所の確立を目指し、国や町に営農を基軸とした復興拠点の再構築を要望。大槌町沿岸営農拠点センターの建設と産直店舗を設けることが決まった。センターの建設計画と並行しながら、沿岸地域の組合員とJAは仮設住宅への移動販売や予冷庫を再利用した店舗での販売、片道2時間半かけ、花巻市の母ちゃんハウスだあすこへの出荷など、売り場確保に努める日々が続いた。

### 部会設立

生産活動の再開に尽力を続ける沿岸地域の組合員で構成する「沿岸産直部会」を平成26年2月に設立。現在106人の会員が所属している。だあすこ産直店オープンまでの約2年間、会員達は通年出荷用の作物栽培に取り組みできた。約70種の播種・収穫期間が一目で分かる「野菜栽培暦」の活用や新たな品目の栽培に対しJAが種苗の助成を行った「新品目栽培実証」を使用したさまざまな栽培への挑戦。特に冬期間のハウス野菜に力を注いだ。多品目の組み合わせ栽培は生産者の意識向上に繋がり、やがて講習会や研修会の参加者人数が増加。互いに技術や情報の交換を積極的に行なった。同じ目標に向かって進むうちに仲間意識や一体感が生まれていった。

### 営農活動の再構築に向けて

# 前へ進み続ける JA沿岸産直部会

### 冬採りキャベツ

夏は冷涼、冬は温暖な沿岸地域特有の気候を生かした周年出荷への取り組みに冬採りキャベツがある。震災前から試験栽培をしてきたが農業復興をてこ入れするため震災後に本格的に栽培を開始。7月の播種後、8月に定植、12月末〜1月に根を付けたまま半冷凍状態で収穫し、貯蔵。3月まで出荷が可能だ。春出荷用の野菜と組み合わせることで通年出荷の可能性が広がり、所得向上にも繋がる。





大田市場で、JAオリジナルブランドの蜜入りサンふじ「賢治りんご」発見



▲会話ははずみ、コミュニケーションも完璧でした！  
▲お客さんのハートをつかんだ農産物の紹介チラシ配り



▶リンゴの品種や味の特徴も詳しく説明できるようになりました



市場担当者の話に聞き入る子ども達



大田市場に集まってくる農作物の量に子ども達もびっくり！



雑穀ご飯の試食準備。「お客さん喜んでくれるかな」



2人で協力しながらのヨーグルトの試食準備



# はなまきキッズ農業塾 in 東京・横浜

故郷・JAいわて花巻

## ～消費地で知る地域農業の素晴らしさ～

### 農業を次世代へ繋ぐ「はなまきキッズ農業塾」

J Aは、食料供給を担う農業と農業者の重要性を次世代へ伝え繋ぎ、地域リーダーの人づくりを促進するため「はなまきキッズ農業塾」を開校しています。J A管内で生産された農作物とそれを作る農業者や家族の尊さ、地域農業や故郷に対し誇りを持つ人材を育てます。

新春を迎えた1月6日、農家組合や生産部会などの代表者から推薦された組合員家族の5、6年生23人が集まり、今年で6年目を迎える農業塾がスタートしました。子ども達は3日間の研修を通し、家族が作った農作物が消費地でのように販売され、消費者が何を感じながら購入しているのかを実際に肌で感じ学びました。

### 農作物の消費地を知る in J A横浜農産物直売所

農業塾2日目、子ども達はJ A横浜の農産物直売所八マツ子でリンゴ(蜜入りサンふじ「賢治りんご」、シナノゴールド)や雑穀、J A子会社の加工品「岩手早池峰のむヨーグルト」などを中心にさまざまな商品をPRしました。

1月の冷たい浜風に打たれながらも、子ども達は「いらっしやいませ」「いわて花巻のおいしい農作物です」など大きな声で来客者をお出迎え。試食や試飲、PRチラシなどを配りながら、積極的に話しかけ交流を図る姿はハツラツと輝いていました。

体験前、農家が一生懸命に育てたものであることを心に刻み、PR商品の勉強を行った子ども達は、来客者からの雑穀ご飯の作り方やリンゴの味についてなど、様々な質問にも戸惑うことなく立派に受け応え。未来の後継者たちの頼もしさを感じた瞬間でした。

### 農作物の流通を知る in 大田市場

2日目の朝は、夜明け前にホテルを出発し東京都中央卸売市場(大田市場)に向かいました。大田市場には毎日約3500tの農産物が全国各地・海外から集まります。また、J Aからも年間を通じてたくさん品目の農産物が届けられ全国で販売されています。

子ども達は市場内にある各地から集まった大量の農産物に驚き、また、仲卸業者と売買参加者(小売業者やスーパーのバイヤーなど)が農作物の値段をせり合っている様子に釘づけになりながら施設内を見学しました。他にもJ A管内で生産される農産物の品質が首都圏で高い評価を受けている事や多くの需要がある事、高級デパートからも多くの要望があるほど品質が良い事などを知り、目を輝かせていました。

自分の家族が生産している農作物がどのような経路を経て消費者の元に届くのか知らなかった子ども達にとって、大田市場での研修は、これまで空白だった流通ルートが一本に繋がれ、新たな興味を持つことが出来ました。

また、消費地で知ったJ A管内で生産される農作物の評判の高さは、地域農業や故郷、農業を営む家族を誇りに感じるきっかけとなったことでしょう。

## 農業塾カリキュラム

### 1日目(1/6)

- 9:30 新花巻駅にて出発式
- 14:00 (-社)家の光協会研修
- 16:00 東京都内見学
- 18:30 全農ミートフーズ直営店で岩手県産食材の夕食

### 2日目(1/7)

- 6:30 東京都中央卸売市場(大田市場)研修
- 9:00 J A横浜農産物直売所「八マツ子」J Aいわて花巻産農産物・加工品PR

### 3日目(1/8)

- 10:00 東京都内見学
- 18:45 新花巻駅着後「解散式」



子ども達は、研修前や体験前には「研修のしおり」を開き、事前勉強してから研修に臨みました。また、研修中も、担当の方からのお話を聞いて感じた事や、目にして気がついた事などをしっかりとメモをとる姿が印象的でした。

学んだ事もメモをとって、自分自身にインプット!

## 3日間の農業塾の感想

- 参加したキッズたちから帰りの新幹線内で3日間の感想を聞きました。一部抜粋して紹介します。
- ★お客さんが「おいしい」と言ってくれて嬉しかった。もっとJAいわて花巻の作物を知ってもらいたいと思った。
- ★JAいわて花巻の農作物が凄く人気がある事が分かった。
- ★農作物のおいしさと魅力をPRできた。お父さんとお母さんが農家で良かった。
- ★セリを初めてみて驚いた。3日間みんなと協力できたし、友達がたくさんできて嬉しかった。
- ★市場や高級スーパーからもJAいわて花巻の農作物が人気だという事を知った。
- ★実際に体験や見学をして野菜の流通について知ることができた。
- ★最初に立てた農業塾での目標を達成できた。
- ★本当にいろいろな事を学べた。参加できて良かった。3日間で成長できた気がする。

たいへんすばらしかったです  
よくがんばりました

- 齋藤 陽菜
- 南城小学校(6)花巻
- 及川 裕生
- 矢沢小学校(6)矢沢
- 塚澤 美妃
- 宮野目小学校(5)宮野目
- 多田 朱里
- 湯本小学校(6)湯本
- 湯本小学校(6)湯本
- 佐藤 光優
- 湯口小学校(6)湯口
- 戸来 和生
- 太田小学校(5)太田
- 照井 慎之介
- 世間第一小学校(6)世間
- 高橋 来音
- 八幡小学校(6)石鳥谷
- 高橋 琉々
- 八重畑小学校(5)石鳥谷東
- 高橋 悠希
- 亀ヶ森小学校(6)大迫町
- 菅原 颯
- 東和小学校(6)東和町
- 小笠原 蒼太
- 黒沢尻東小学校(6)みなみ
- 盛合 恵那
- 立花小学校(5)さくら
- 齊藤 禅
- 更木小学校(6)三子
- 高橋 界
- 和賀東小学校(6)和賀町
- 下瀬川 優雅
- 江釣子小学校(6)江釣子
- 佐々木 柚音
- いわさき小学校(6)岩崎
- 高橋 陽人
- 笠松小学校(6)横川目
- 羽柴 夢叶
- 湯田小学校(5)湯田
- 大塚 頌仁
- 沢内小学校(5)沢内
- 菊池 皇
- 青世小学校(5)遠野
- 浅沼 拓哉
- 宮守小学校(5)宮守
- 戸澤 頼威
- 大植学園小学校(6)大植
- 学校名学年(所属支店)

### 新規作付希望者の不安と疑問にピンポイント提案 園芸 YARUBE (やるべ) セミナー



各品目の担当者が参加者一人ひとりと面談

J Aは1月14日、園芸品目の新規作付希望者を対象に「園芸 YARUBE セミナー」をJA本店で開きました。

J Aは重点品目のアスパラガスやリンドウなど6種の野菜と4種の花きを紹介し、栽培や経営の流れ、初期投資額や収支計画、助成制度などを説明。参加した11人との個別面談では、不安要素や課題に対し、個々に合った内容の解決策や品目提案を行いました。

参加した40代女性は「作付け品目の視野が広がった。今後の方向性が見えてきた」と前向きな姿勢をみせました。J Aはセミナー参加者の意見を参考に、今後も新規作付希望者の声にこたえ、支援に力を注ぎます。

### 餅振る舞い来店者と交流 新年祝い北上支店が初めて企画



一つひとつ丁寧に、餅に味を付ける女性部員

北上支店は1月4日、組合員や地域住民との触れ合いのきっかけづくりを目指し、つきたての餅を来店者に振る舞い新年を祝いました。

この振る舞いは、支店行動計画の1環として初めて企画しました。支店職員が約6キロのもち米を威勢よくつき、女性部北上地域支部北部支部の飯豊支部員が手際良く、あんどこときな粉で味を付け、それぞれ1個ずつ振る舞いました。支店内は笑顔で溢れ、来店者からは「つきたてでおいしい。職員と交流することもでき、楽しかった」と好評でした。

J Aでは、伝統的文化を継承した運営を行い、地域づくり運動を展開するため、全27支店が「支店行動計画」を策定しさまざまな取り組みを行っています。J Aは、これからも支店を核として活動していきます。

### 「花巻まんま一ず」東北農政局長賞を受賞 地産地消活動が高評価



笑顔をみせる花巻まんま一ず代表の齊藤さん(中)

J Aの食育リーダー「花巻まんま一ず」が、創意工夫のある地産地消の活動をした団体・個人に贈られる「平成27年度地産地消優良活動表彰」の東北農政局長賞に輝きました。

同団体は、就学前の子どもたちや親子向けの料理体験を行っており、食の大切さを伝えている点が高く評価されました。料理体験で作るおにぎりに、地元産の雑穀を取り入れるなど積極的に地元食材を使用。四肢五感を全て使う料理教室と好評を得ています。

代表の齊藤洋美さんは「子ども達に調理法を教えるだけでなく、心も成長できるように更に取り組んでいきたい」と力強く語りました。

### 雑誌「ちゃぐりん」を使って親子で手芸に挑戦 児童館と共同開催



(一社)家の光協会の講師(左上)に教わる参加者

J Aと遠野市の青笹児童館は1月16日、同児童館で「親子工作教室」を開きました。毎年J Aが講師派遣や昼食の準備をするなど、児童館と共同で開催しています。

親子18人が参加し、「(一社)家の光協会講師の指導のもと、雑誌「ちゃぐりん」を活用して毛糸を使った「鏡もちスノーマン」作り挑戦。白の毛糸から雪だるまを作り、フェルトで作ったミカンを頭に載せて作り上げました。

菊池実樹ちゃん(8)は「かわいく作るのが難しかったけれど楽しく出来た」と笑顔を見せ、母親の和代さん(41)は「親子で作業する良い機会となり楽しめた」と話しました。

### 自分を磨いて婚活力アップ JA 婚活スキルアップセミナー「男みがき講座」



自分磨きの知識を蓄える参加者 JAの婚活事業については本紙P15をご覧ください

J Aは1月17日、プロの結婚相談員を講師に登録者自身を磨くためのJ A婚活セミナー「男みがき講座」を花巻市のホテルで開きました。

参加者はJ A婚活事業への登録男性13人。(株)ウェブの清水道子さんの指導のもと、女性との接し方やアプローチ法を習得。他にも洋食のコース料理を前に、マナーや立ち振る舞い、身だしなみや会話術などを実践形式で学びました。参加した30代男性は「小さな心遣いで相手への伝わり方が変わる。自身がついた」と目を輝かせました。

J Aは、出会いの場の提供のほか、今後もスキルアップ講座を展開し、輝く自分磨きの支援にも力を注ぎます。

### 今年のリンゴ栽培始まる 豊作願い、各地で剪定指導会



真剣な眼差しで、どの枝を切り落とすか考える参加者

花巻りんご連絡会は1月13日、花巻市成田にある花南わい化林檎生産組合の団地内でリンゴ剪定指導会を開きました。

生産者約40人が参加し、小原昭男会長が「今年初めての仕事になるが、剪定は重要な作業。しっかりと学び、作柄に結び付けてほしい」とあいさつしました。中央農業改良普及センターの河田道子さんが、樹齢20年と6年の木を剪定指導。日当たりや作業性を考慮し、参加者の意見を取り入れながら枝を切り落としました。河田さんは「去年の管理を振り返りながら今年の作業を進めてほしい」と呼びかけました。

J A管内の花芽調査では、花芽率は平年並み。弱小・褐変花芽率は平年を下回りましたが、地域によりばらつきがあります。リンゴ剪定指導会は2月まで12会場で行われる予定です。

JAからの  
お知らせ

# JAの一日人間ドックのご案内

大切な家族、自分の将来の為に健康チェックを受けてみませんか？

〈検査料金〉

通常 **48,600円**

JAでお申し込み頂くと

**41,040円** で受診できます！

**特徴**

- 70項目以上の検査で自分の健康をチェック！病気の早期発見！
- 脳MRI・MRA検査をはじめ、各種オプションを用意
- 一日で総合的な検査が可能
- 検査結果は一部を除き当日判明。結果にもとづき医師の指導、保健師・栄養士からの健康支援を受けることができます！

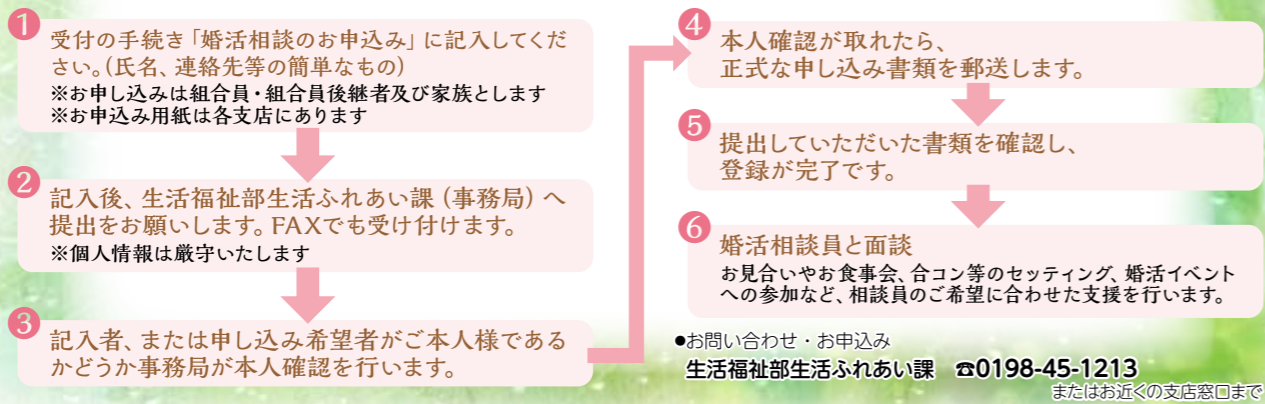
人間ドック助成金については各地域生活ふれあい課にお問い合わせください。

〈お問い合わせ・お申込み〉  
花巻 ☎0198-45-1213  
北上 ☎0197-71-1340  
西和賀 ☎0197-85-3301  
遠野 ☎0198-62-6604

## 婚活♡ 登録者募集

JAでは、婚活事業のひとつとして生活福祉部生活ふれあい課に「婚活相談窓口」を設置し、農業や農家の後継者をはじめ、主に組合員の配偶者を見つかるお手伝いをしています。各支店に配置している「婚活相談員」が相談者と面談し、相手方の紹介や各種婚活イベントの紹介、事後のフォローなどを行い、相談者の幸せな人生と組合員家族の健全な発展を目指します。

### 婚活相談の流れ



●お問い合わせ・お申込み  
生活福祉部生活ふれあい課 ☎0198-45-1213  
またはお近くの支店窓口まで

## 役員室より

特に「農業者の所得増大」と「農業生産の拡大」は、地域振興という観点からも最優先の課題です。JAの営農・経済事業だけでなく、金融事業であっても共済事業であってもすべての事業においてこのことを念頭に置くとともに、総合事業であることの強みを活かしながら、組合員の皆様や地域の皆様に起点としたJA運営を進めてまいります。

今年の冬は、比較的しのぎやすい寒さですが、今後も春の農作業に影響のないような天候が続くことを願っています。昨年8月に成立した改正農協法は、この4月1日に施行されますが、非営利規定の廃止に象徴されるような協同組合の存在価値を否定する内容や中央会制度の廃止等JAグループの組織体制を揺るがす内容が含まれ、協同組合関係者や農業関係者にとっては素直に受け入れることができないのではないのでしょうか。

しかし、われわれの組織がこれまでの社会の変化に十分対応できていなかったことも事実です。で真摯に自覚し、組織の自己改革を進めていかなければなりません。

改正農協法施行を控えて  
常勤監事 今野 英二

## おいでよ！ 子育てママさん！

JAでは子育て中の女性とその家族の皆さんが気軽に集まれる憩いの場として毎月第2・4金曜日に「わいわい子育てフリースペース」を開設しています。

- 日時 2月26日(金) 午前10時～正午
- 内容 ひな祭りに「のり巻寿司」を作ろう！
- 参加費 300円  
※3月11日は午前10時～正午まで開放しています。参加費は無料。ボランティアグループのぼのぼのさんが遊んでくれます。
- 場所 JA野田神社「洗心館」(JA本店北側隣り)
- お問い合わせ 生活福祉部生活ふれあい課 ☎0198-45-1213

## 研修受講者募集 北上市機械化農業公社

北上市機械化農業公社では、以下の研修の受講者を募集致します。

- 研修種類  
①水稲全作研修(通年研修) 播種・育苗から収穫乾燥調製までの全作業や農業経営を外部団体での講習など  
②大型農業機械操作研修及びアスパラガス栽培作業研修(スポット研修)  
大型農業機械の操作やアスパラガス栽培作業など
- 研修期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日
- 対象者 北上市内で就農を志向する就農希望者または就農からおおむね8年以内の方  
※他市町村の方は、相談に応じます
- 定員 各研修おおむね3名
- 費用 研修費用は原則無料  
※傷害保険料等は公社が負担します
- 申込方法 北上市機械化農業公社(北上市和賀町煤孫10-14-2)に置いてある応募用紙に記入して提出
- 申込期間 <通年研修希望者> 3月1日(火)～3月31日(木)  
※スポット研修希望者は随時受け付け
- お問い合わせ・応募用紙請求先 北上市機械化農業公社 ☎0197-73-6022

## ローン相談 日曜日でも承ります!!

ローンセンターは各種ローンの相談を承っています。家の新築や増改築、車の購入、教育資金など、資金借り入れの相談や検討している方はお気軽にご来店ください。専門スタッフが丁寧に対応致します。

- 開催期間 月～金曜日…午前9時～午後6時  
日曜日…午前9時～午後4時  
※定休日は土曜日と祝祭日
- お問い合わせ ローンセンター (JA本店営業課隣り) ☎0198-22-6277

## (株)JAグリーンサービス花巻 農業機械大展示即売会

農機センター花巻・石鳥谷・東和・遠野・北上合同の「農業機械大展示即売会」を開催します。新製品や目玉商品を多数展示。作業効率の向上やコスト低減につながる商品を提案します！様々な農業機械をご用意して皆様のご来場をお待ちしております。

- 開催場所 (株)JAグリーンサービス花巻本社 特設会場(花巻市野田307-1)
- 開催日時 3月18日(金)・19日(土) 午前9時～午後4時
- お問い合わせ (株)JAグリーンサービス花巻 農機センター花巻 ☎0198-23-2110

## 各グリーンセンター定休日

2月・3月の定休日は次の通りです。ご確認の上ご来店ください。

	2月	3月		2月	3月
花巻	14日・27日	13日・27日	北上	21日	6日・20日
石鳥谷	13日・27日	12日・26日	西和賀	土曜日・日曜日・祝日	
大迫	土曜日・日曜日・祝日		遠野	13日・27日	8日
東和	20日	5日・19日			

営業時間は全店舗8:30～17:00です。(3月まで) 2月29日(月)は棚卸の為、全店休業と致します。

お問い合わせ先: 営農推進部生産資材課 ☎0198-22-6192  
または、最寄りの各地域グリーンセンターまで

### 理事会だより

次の事項について審議され、全議案議決されました。  
第12回理事会 開催日…1月28日(木)

- 議決事項  
第1号議案 常例検査の回答について  
第2号議案 JA全国監査機構平成27年度財務諸表等監査(期中監査)「改善を要する事項」の回答について  
第3号議案 JA岩手県第3次管理・経済業務システムの共同利用及び開発費の拠出について  
第4号議案 固定資産(宮守育苗施設改修)の取得について  
第5号議案 販売業務規程の改正について

### 監事会だより

次の事項について協議されました。  
第12回監事会 開催日…1月28日(木)

- 協議事項  
(1) 平成28年度監事監査計画(案)について  
(2) 平成27年度決算監査の実施について  
(3) 常例検査(監事監査指摘事項)の回答について  
(4) 常例検査回答書にかかる監事意見について  
(5) JA全国監査機構財務諸表等監査(期中監査)回答書にかかる監事意見について  
(6) JA全国監査機構平成27年度財務諸表等監査(査定監査)の立会について



# 風趣点景

管内滝巡り⑩



## 遠野市「長瀨の滝」

段瀑/推定落差・10メートル



写真・文/高沢翔

西和賀町をメインに風景写真を撮っている写真家。写真絵葉書を7作発行。平成21年～23年までJAいわて花巻監事を1期務めた。本名：高橋定雄(西和賀町沢内在住) ホームページ「高沢翔写真館」<http://esuke.sakura.ne.jp>

管内滝巡り⑩で紹介

の遠野市「荒川不動ノ滝」に近く、荒川牧場そばの滝です。

流れが何段かに分かれいろいろな角度から撮影が楽しめます。瀨(とろ)の文字は、深い淵で流れの静かな所という意味だそうです、この滝は水量豊かで急流でした。

この滝のやや近くには「小鳥瀬の滝」という名の静かに流れる小さな滝があります。



## 編集後記

From Editor's



### 毎

日書き綴ったノート。何気なく開いたページにいたのは広報1年目のがむしゃらすぎる26歳の私。ふと目に入った「未来の自分よ、今の私の情熱より誇れるもの持っている？」という言葉。何を偉そうに…。この3年間、ペンの先まで悩んだり泣きげもかいた。でも取材先で出会う強い思いや笑顔や言葉が何度も心に火を灯し挑戦する情熱をくれた。過去の自分に即答する、私の誇れるものは「この出会い、尽くしたいと思える人々だ」。新たな年度が始まる。力量を蓄え次は私が力になる番。農協人として未来の私が誇れる仕事を、全力で。「大内」

### 寒

さ厳しく、ときに吹雪吹き荒れる岩手の冬。雪が少なく心配されていたが、今年に入りやっとな積もった。雪かきを思うと大変なことだが、今月号の表紙に登場している凍み大根を始め、この土地ならではの気候を活かし農業を営んでいるのも事実。そして、サクラもこの寒さがあるからこそ春に美しい花を咲かせるのである。確かに寒さは厳しいが、多くの恵みをもたらす冬。この寒さに負けず、さまざまな力を蓄え来年度を迎えたい。

「佐藤」